

2006年

8 月号
ピクセス

PiCCeSS

icture Success Magazine

特集

「写真大好き!
写真・カメラ店へ贈る明日への
提言」

〔提言〕
フォトクリエイト/白砂社長
全連/山崎理事長
サンエイ/横井・東京支局責任者

〔アクションプラン〕
エプソン/富士フイルムイメージング/三菱電機/フォト検定/
アイメディック/ラボネットワーク/東映堂/ダイキ/

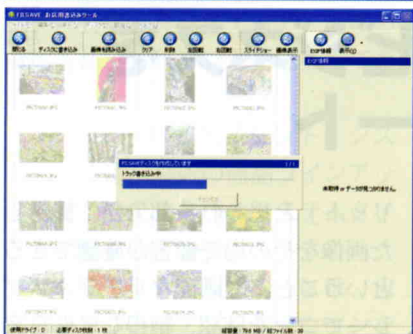
ステップアップ! 実戦Photoshop

グラフ特集
10,000人の写真展&富士フイルム展
スタジオ写真フェア2006

Webサイトが本誌と連動
HOTなニュースを随時提供いたします

<http://piccess.jp/>

いますぐアクセス!



書き込みの操作は簡単。Exif情報が見られるのが好評。上のバーに付加機能が追加される

また、このメディアは、市販されない。ここにも写真専門店ならではのサービスとなり得る要素がある。

勉強会では好反応 すでに動き出したお店も

アイメディックでは、「Filsave」の実力を知ってもらおうと、本社のある兵庫県内の小売店で組織される兵庫県写真材料商組合に呼びかけ、このほど勉強会を開催した。

この勉強会には、組合員40名以上が出席したが、組合全体の約半数が出席したことになり、これまでにない高い関心を示したことがよくわかる。資料請求も多く、これを合わせれば、「8割近くが“保存”に興味を示してくれた」ことになる。

「当日、パソコンを持っている人は持ってきて欲しい、と呼びかけましたが、7店の方がノート型を持ってきてくれたし、質問も多くて反応の大きさに驚きました」と平出明社長。

市場導入後も「現在販売しているCDを全てFilsaveに換える、という店もありますし、2本ラインでやるという店もあります」と、消えるかもしれないというのは信頼を裏切ることになる、と考える店もあるし、顧客の選択を促す店もある。いずれにしても確実な手応えがあった。

サービスの導入は簡単 無償の書き込みソフト

「Filsave」による書き込みサービスを導入するのは簡単だ。

「Filsave」の書き込み用のアプリケーションは、無償で提供されるので、店側としては、CD-R書き込みドライブの付いたパソコンを用意すればいいだけ。

アプリケーションは、<http://www.imedic-s.com/>より入手でき、さらにお店用POPや説明用リーフレットの入手もできる。書き込み用のアプリケーションは、非常に簡素にできており、複雑なイメージは全くない。

メニューの「画像を読み込み」のアイコンをクリックすると、ファイル選択のウィンドウが現れ、そこで目的のファイルを選択すると画像が読込まれる。

問題がなければ、「ディスクに書き込み」ボタンをクリックするだけで、書込まれる、という単純なもの。

発展性のあるオプション 続々と付加価値サービス

「Filsave」は、単に保存するのみの商材ではない。いろいろと付加機能があることも大きな特長となっている。

「Filsave」の機能のなかで、評判がいいのが、Exifの情報を簡単に確認できること。解像度、撮影年月日時はもちろんのこと、カメラの種類、焦点距離、F値、露出時間、ISOまでも簡単に確認できる。

また、「Filsave」は、進化をし続けるソフトとして注目される。

今後、付加価値サービスの機能を盛り込んでいき、単にCD-Rに書込んで終りという単体のサービスではないところを強調していく。

「Filsave」の機能は、お店の希望により、カスタマイズできるようになっており、いわゆるオプション機能が付加できる（有料）。

まず、「追記機能」。近々に完成するということだが、一度書込んでから、もう一度同じ盤に追記できるようになる。

枚数確保という観点からは、デメリットがあるが、「もう一度来店してもらえ、会員カード代りにもなる」ところがメリット。店側が、追記せずに枚数で稼ぐか、追記料を取って、容量で稼ぐかが選択できるようになる。

次に、お店を紹介するページを設けることが可能となる。

住所や電話番号はもとより、キャンペーンの案内なども表示することが可能だ。

この2つの機能の盛り込みを優先的に行っていき、各店で独自の内容の「Filsave」を構築できるように考えている。

これに引き続き追加される機能としては、リリースの順番は別として、「インデックス」「ネットプリント連携」「名刺サイズプリント」「レイアウト」などの機能のほか、ホームプリントができない、つまりユーザー自身ではプリントアウトできない、「コピープロテクト機能」も付加できるとしている。

「バージョンアップも続けたいと思います。お店と一緒に作っていただければいいと思っています」と新しいサービスを写真業界に拡げていく媒体としての「Filsave」を目指す。